

地域内ファイダー系統 事後評価要約版(29年度)

支局	No.	自治体・協議会名		二次評価
		事業概要		
		自己評価		
		岡崎市交通政策会議		
愛知	4	額田支所市民病院線、下山地区線、形埜地区線、宮崎地区線、豊富・夏山地区線		
		額田支所市民病院線 【利用者数】7,075人(目標7,611人) 【利用率】0.18%(目標0.19%) 運行範囲が多学区にわたっており、額田地域以外への周知不足が原因と考えられる。 下山地区線 【利用者数】4,905人(4,409人) 【利用率】2.33%(2.09%) 形埜地区線 【利用者数】777人(914人) 【利用率】0.29%(0.35%) ほとんど利用されていない上、一色平まで運行しているなど、往復に時間がかかる等の不便な面があった。また、利用が多い診療所通院に配慮されたダイヤになっていないことが原因であると 考えられる。 宮崎地区線 【利用者数】410人(441人) 【利用率】0.44%(0.38%) 豊富・夏山地区線 【利用者数】442人(480人) 【利用率】0.14%(0.15%) 地域に必要な生活交通を目指し、利用者現状維持を目標として地域で利用促進に取り組んできた が、周知不足に原因があると考えられる。		市街地、郊外、中山間部と多様な市域を抱える岡崎市において、鉄道や基幹バス路線、地域交通路線などにより公共交通網を整備のうえ、地域住民の要望把握、情報提供のほかバス事業者との定期的な会議を開催するなど、利用促進に向け改善に努めていることについて、評価します。 また、今般、市内バス「まちバス」について、市民の要望を踏まえ、まちなか等における利便性の向上や回遊性の向上を図るため、東岡崎駅に乗り入れし、交通結節を図り利便性の向上を図ったことを評価します。 今後は、利用者数が伸び悩む中山間部において効率的で効果的な路線再編と利用促進の推進を期待するとともに、近隣市町との連携による広域的な公共交通ネットワークを構築することを期待します。

岡崎市交通政策会議 (フイダー)	A 委員	B 委員	C 委員	運輸局
	◆くちがら線で補助から外れたことを経験済みであるため、それらの教訓を踏まえてきちんと検討して欲しい。	◆バス停名称を 3 文字以内にして、視認性を上げることが改善なのか。 → (市) 市民からのバス停名称が見にくいという意見に対応したものである。 → (B) バス停にはバス停名称ではなく、行き先表示が必要であることは以前から言っている。 → (市) 今後の参考としたい。 → (B) そのような認識が、桜形線の補助落ちにつながっているのではないか。沿線地域の地元協議会はあるのか。 → (市) 桜形線にはないが、コミュニティバスの協議会は存在する。その協議会内で桜形線の利用促進として、名鉄バスの得々パスの案内をするなどは行っている。 → (B) 桜形線が補助落ちになることは地域住民にも周知済みということか。危機意識につながないのではないか。そういった内容が評価に記載されていない。フイダーシステムだけ頑張っても利用はそこだけになってしまいが、岡崎やその先まで行く場合には地域間幹線系統の維持が必要であり、そのために地域住民として何ができるかを考えていただく必要がある。地域間幹線系統は誰が残してくれるので、フイダーシステムだけ考えればよいという認識では地域間幹線系統は廃止になってしまうことになるのではないか。	◆バスの乗り方教室の実施回数が目標となるかは疑わしい。乗り方教室実施の結果、どの程度の方がバスを利用してくれるようになったかを目標とすべきである。 ◆中部様式 4 ページの各種利用促進事業も同様で、実施自体はよいがその効果が分からない。 ◆公共交通マップについては、継続して作成欲しい。 ◆中部様式 5 ページ：評価見直しに向けた検討の趣旨を明確にした方がよい。また、定量的な評価、定性的な評価について検討した結果、新たな指標があれば教えて欲しい。 → (市) 新たな評価指標については、現在検討中であるが、1 つの案としては、市としてのネットワークとしての必要性や市民の移動の際の必要性、地域住民の協議状況などを評価できればと考えている。 ◆本省様式の評価の内容がどれも同じに見える。→ (市) 記載内容を見直したい。 ◆バスの乗り方教室については効果の検証を行っているか。 → (市) 全体として利用が増加していることを踏まえると成果は出ていると評価している。	◆県の説明のとおり来年度から「桜形線」については補助対象外となるおそれがある。これまでの傾向から、補助対象外になってその後に路線廃止になる可能性も危惧されるがそれによいということか。 → (市) 広域的な利用の有無について系統ごとに評価・検証し、路線の必要性を検討したい。 → (運輸局) 北部診療所から岡崎市民病院間は下山地区線と競合している。系統ごとに分析することがよいが、そのような悠長なことを言っている場合ではない。岡崎安城線も減便になっているが、地域間幹線の役割がないのであれば、まちバスに役割を譲るなど、事業者と協議した上で方向性を検討して欲しい。広域的な路線の役割を明確にして施策に取組んで欲しい。 → (市) 喫緊の課題として認識している。